

中世のムラ ―北と南から―

福島県文化センター 飯村 均

はじめに (図 1)

まほろんの初代館長である藤本強氏は、「もう二つの日本文化」として「北の文化」と「南の文化」の理解の重要性を提唱し、「中の文化」を中心としたこれまでの日本史に一石を投じた(藤本 1988)。

北海道の擦文文化期・アイヌ文化期や、南島の貝塚時代・グスク時代は、文字史料が極めて少ないことは周知のことであり、その歴史を解明するために考古学の果たす役割は大きいと、私は考えている。

そこで、「中の文化」で「中世」と呼ばれる時代の、「北の文化」「南の文化」の地域における、「ムラ」＝「村・村落・集落・村落共同体・屋敷・屋地など」と呼ばれる遺跡を紹介し、その実像を考えてみたい。

1 「北の文化」のムラ(図3～8)

北海道勇払郡厚真町 厚幌ダム建設関連遺跡群

2 「南の文化」のムラ(図2・図9～14)

沖縄県八重山郡竹富町 竹富島クマーラ・ハナスク遺跡、新里村遺跡

沖縄県八重山郡竹富町 波照間島下田原城・マシユク遺跡

沖縄県石垣市 石垣島フルストバル遺跡

3 「中の文化」と比較して(図 15～17)

新潟市馬場屋敷遺跡下層

都市・鎌倉

『陸奥国骨寺村絵図』

引用文献

- 財団法人アイヌ文化振興・推進機構ほか、2001『よみがえる北の中・近世 掘り出されたアイヌ文化』
- 厚真シンポジウム実行委員会他、2015『厚真シンポジウム 遺跡が語るアイヌ文化の成立—11～14 世紀の北海道と本州島』
- 天方博章・乾哲也、2013『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5—』厚真町教育委員会
- 天方博章・乾哲也・小野哲也、2011『オニキシベ2遺跡—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4—』厚真町教育委員会
- 飯村均、2009『中世奥羽のムラとマチ 考古学が描く列島史』東京大学出版会
- 飯村均、2014「中世のムラ—北から—」藤原良章編『中世人の軌跡を歩く』高志書院
- 飯村均、2015a『中世奥羽の考古学』高志書院
- 飯村均、2015b「五 遺跡からみる中世前期東北の社会」七海雅人編『東北の中世史 2 鎌倉幕府と東北』吉川弘文館
- 飯村均、2017「ムラが消えた—ムラ研究の可能性—」『考古学の中世史研究 13 遺跡に読む中世』高志書院
- 飯村均、2018「東北地方の物流と移動」木村茂光・湯浅治久編『生活と文化の歴史 10 旅と移動—人流と物流の諸相』竹林舎
- 飯村均、2019「やきものから見える価値観—北から—」『貿易陶磁研究』No.39 日本貿易陶磁研究会
- 一関市博物館、2008『中世荘園骨寺村』
- 乾哲也・小野哲也、2007『上幌内モイ遺跡(2)—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2—』厚真町教育委員会
- 内田順子、2020『映し出されたアイヌ文化 英国人医師マンローの伝えた映像』吉川弘文館
- 工藤武・大石直正ほか、2004『骨寺村荘園遺跡』一関市教育委員会
- 黒田日出男、1996「特論②網代壁・板壁・土壁 町屋イメージの変貌」『絵巻物に建築を読む』東京大学出版
- 小野正敏ほか、1999『村が語る沖縄の歴史—歴博フォーラム「再発見・八重山の村」の記録』新人物往来社
- 小野正敏編集代表、2001『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 川上貞雄ほか、1983『馬場屋敷遺跡等発掘調査報告書』新潟県白根市教育委員会
- 斎木秀雄、1991「板壁掘立柱建物跡の提唱」『中世都市研究』第1号中世都市研究会
- 斎木秀雄ほか、1993『神奈川県・鎌倉市 佐助ヶ谷遺跡』佐助ヶ谷遺跡発掘調査団
- 玉井哲雄ほか、2004『日本列島南北端の住居形成過程に課する学際的研究 2001 年度～2003 年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書』研究代表玉井哲雄(千葉大学工学部教授)
- 藤本強、1988『もう二つの日本文化 北海道と南島の文化』東京大学出版会
- 村木二郎ほか、2020『国立歴史民俗博物館「海の帝国琉球—八重山・宮古・奄美から見た琉球—」遺跡から見た琉球列島のグスク時代 資料集』村木二郎(プロジェクト代表)

	北	海 道	南	島	本州・四国・九州
前 1000					
前 500	縄 文 文 化	縄 文 文 化	貝塚時代前期の文化 (縄文文化)		縄 文 文 化
1					
					弥 生 文 化
500	続縄文文化		貝塚時代後期の文化		
					古 墳 文 化
1000	擦 文 文 化	オホーツク文化			奈良・平安時代
					
	ア 内 耳 土 器 の 時 代		グスク時代		鎌倉・室町時代
1500	イ 文 化				
	ス 文 化	チャジの時代			江 戸 時 代

表 1 「北(北海道)の文化」, 「中(本州・四国・九州)の文化」, 「南(南島)の文化」対照表*

図1 「北の文化」「中の文化」「南の文化」対照表(藤本 1988)

琉 球							近世琉球
古							
琉 球							
三山時代							
(1429)							
第1尚氏王朝							
第2尚氏王朝 前期							
(島津侵入)							
第2尚氏王朝 後期							
江 戸 時 代							
桃 山 土 山							
戦 国							
室 町 時 代							
南北朝							
鎌 倉 時 代							
平 安 時 代							
貝塚時代							
原 琉 球							
11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀	
金							
北 宋							
南 宋							
元							
タタール・オイラート							
明							
清							
朝鮮							
高麗							
遼							

図2 琉球関係年表(小野 2001)

[illegible]

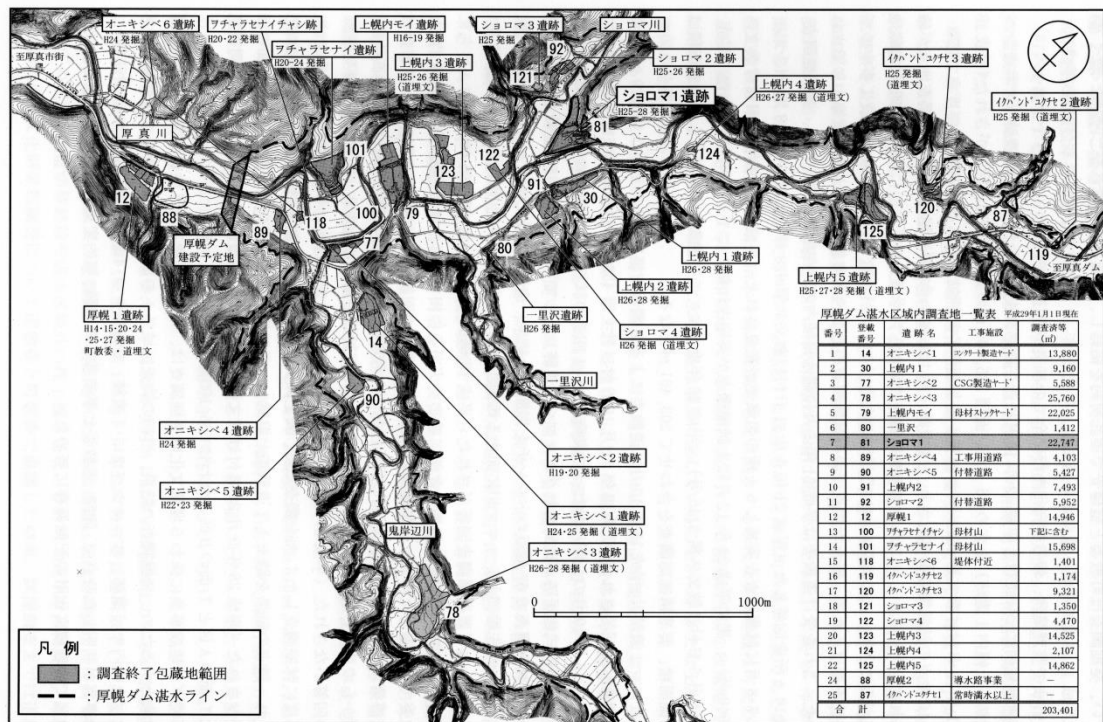


図 I-1 厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財包蔵地位置図

図4 厚幌ダム建設関連遺跡群

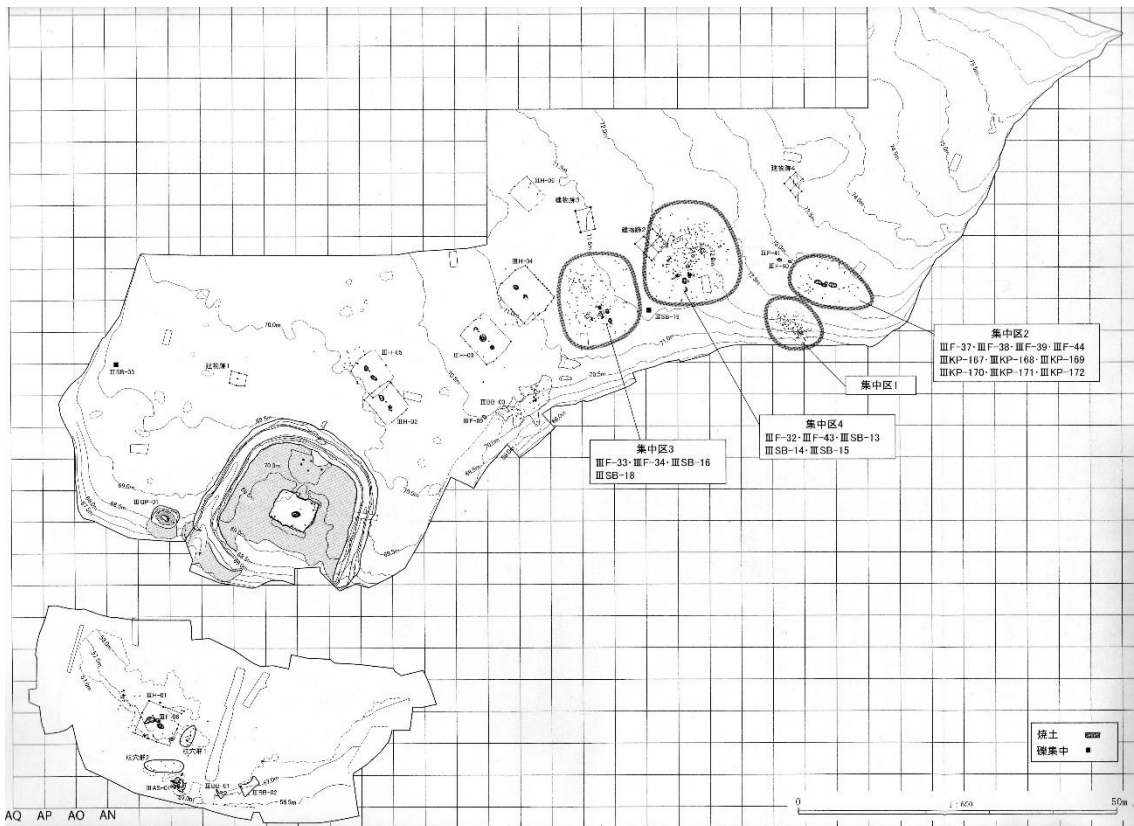


図5 オチャラセナイ遺跡・オチャラセナイチャン(天方・乾 2013)

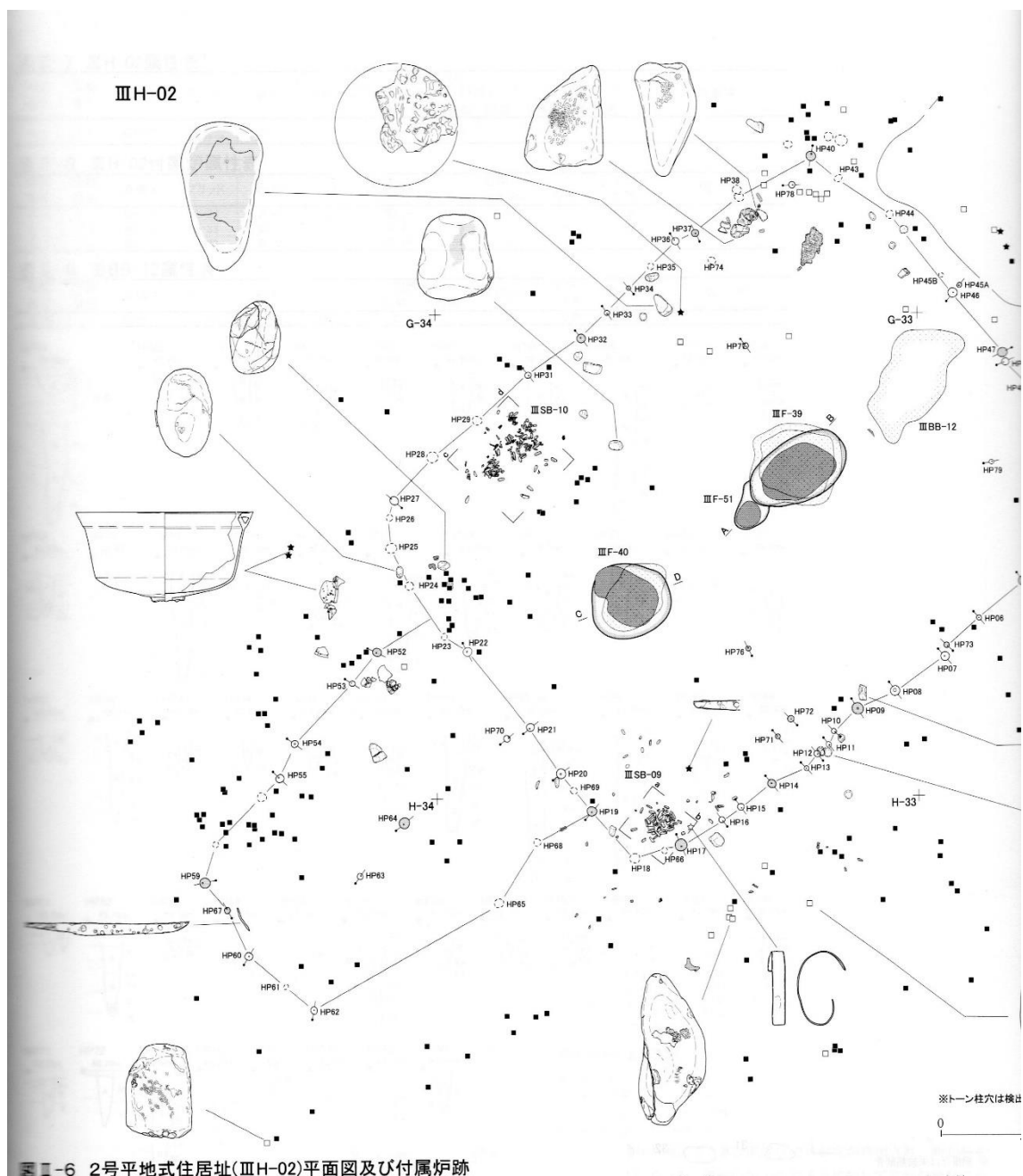


図 11-6 2号平地式住居跡(ⅢH-02)平面図及び付属炉跡

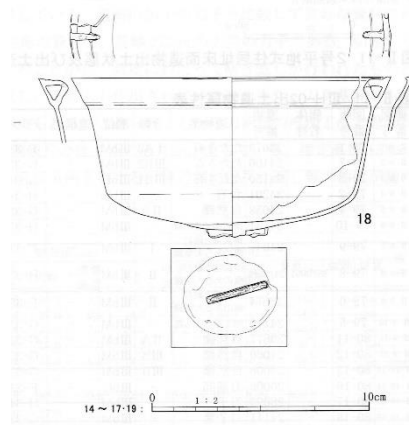
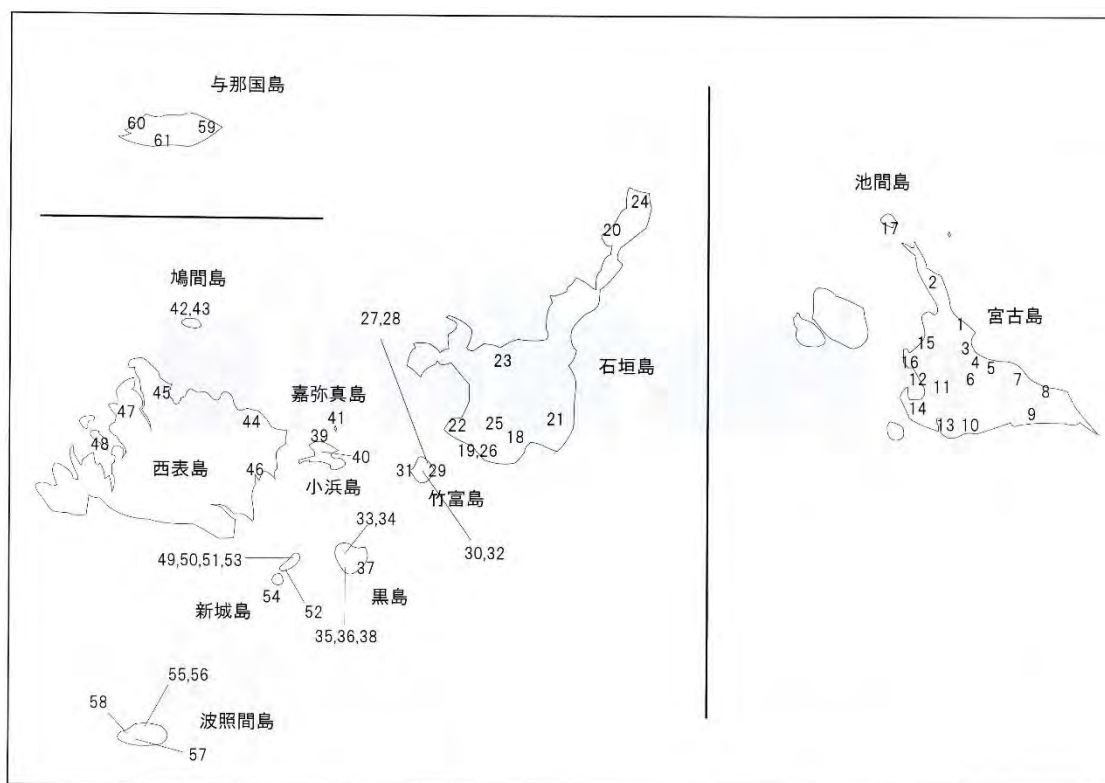


図8 上幌内モイ遺跡2号平地式住居跡
出土内耳鉄鍋(乾・小野 2007)



18:フルストバス遺跡 27・28:新里村遺跡 29:クマーラ・ハナスク遺跡

図9 中世先島のムラ(村木ほか 2020)

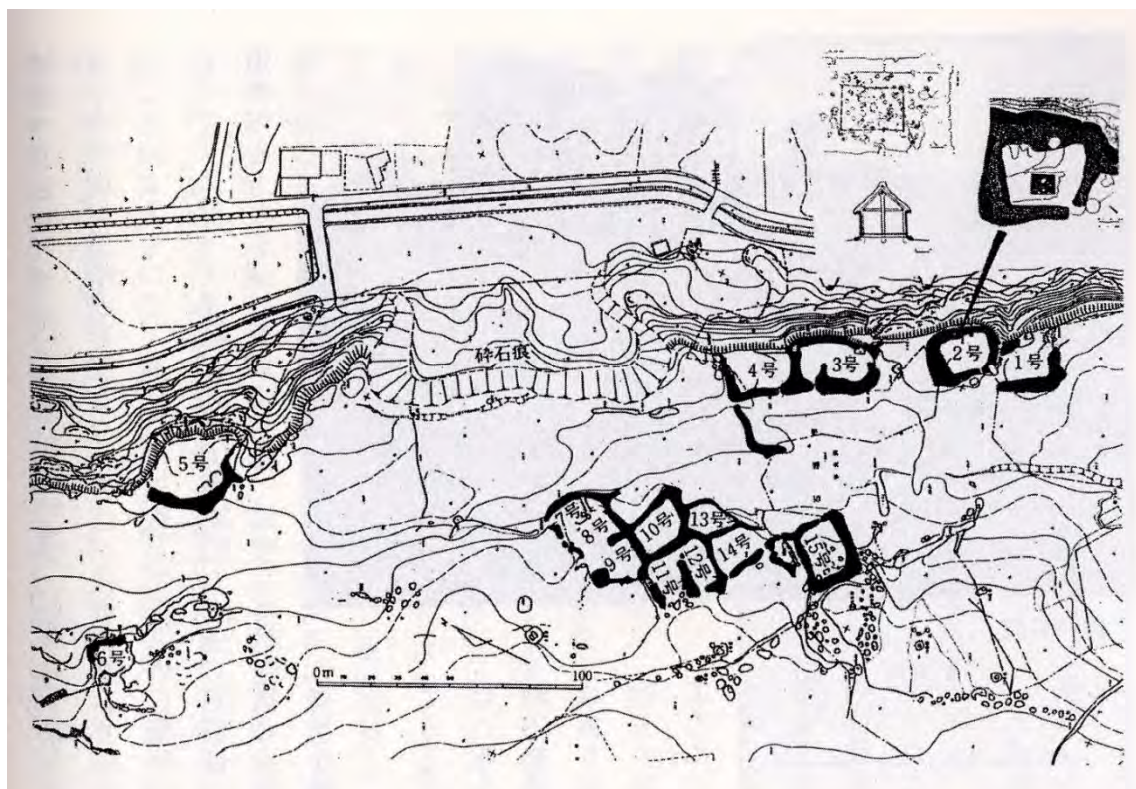


図 10 石垣市フルストバル遺跡(村木ほか 2020)

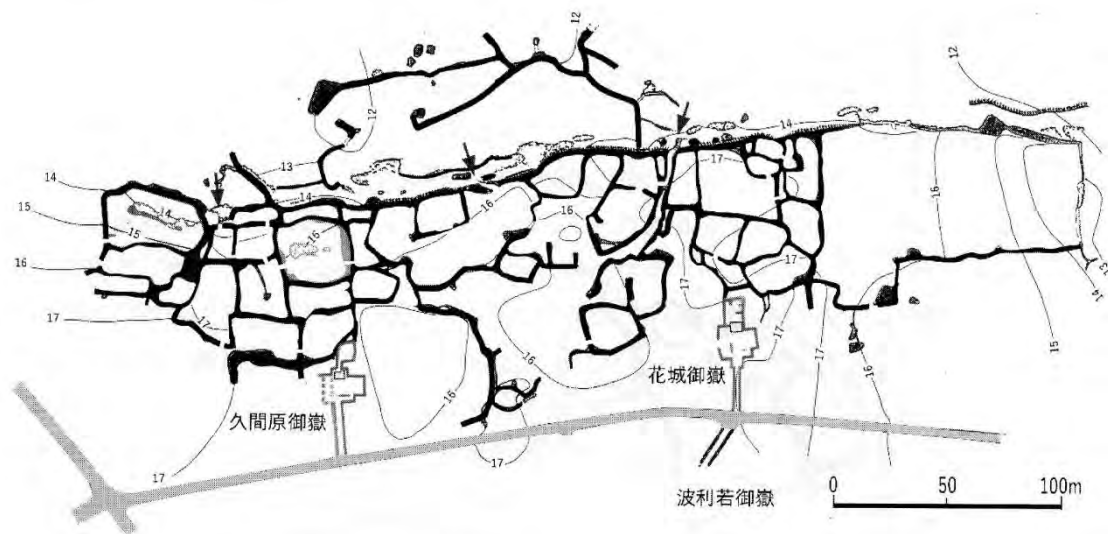


図5 竹富島・クマーラ・ハナスク遺跡模式図

図 11 竹富町クマーラ・ハナスク遺跡(村木ほか 2020)

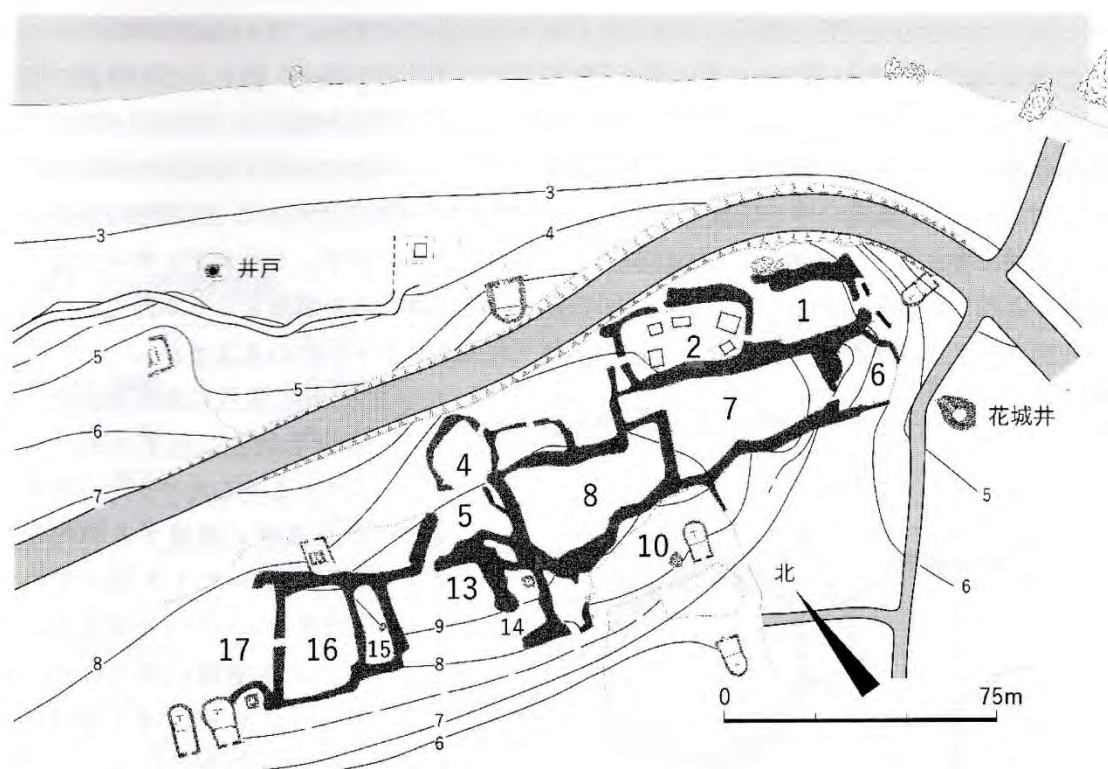


図6 竹富島・新里村遺跡模式図

図 12 竹富町新里村遺跡(村木ほか 2020)

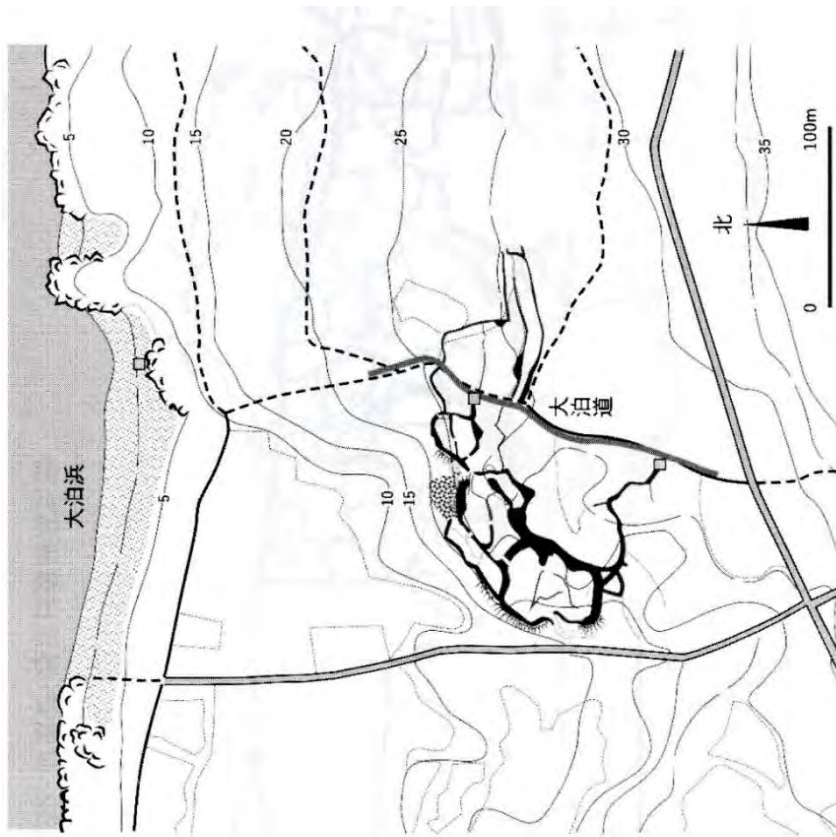


図3 波照間島・ブリブチ遺跡(下田原城)模式図

図 13 竹富町波照間島下田原城(村木ほか 2020)

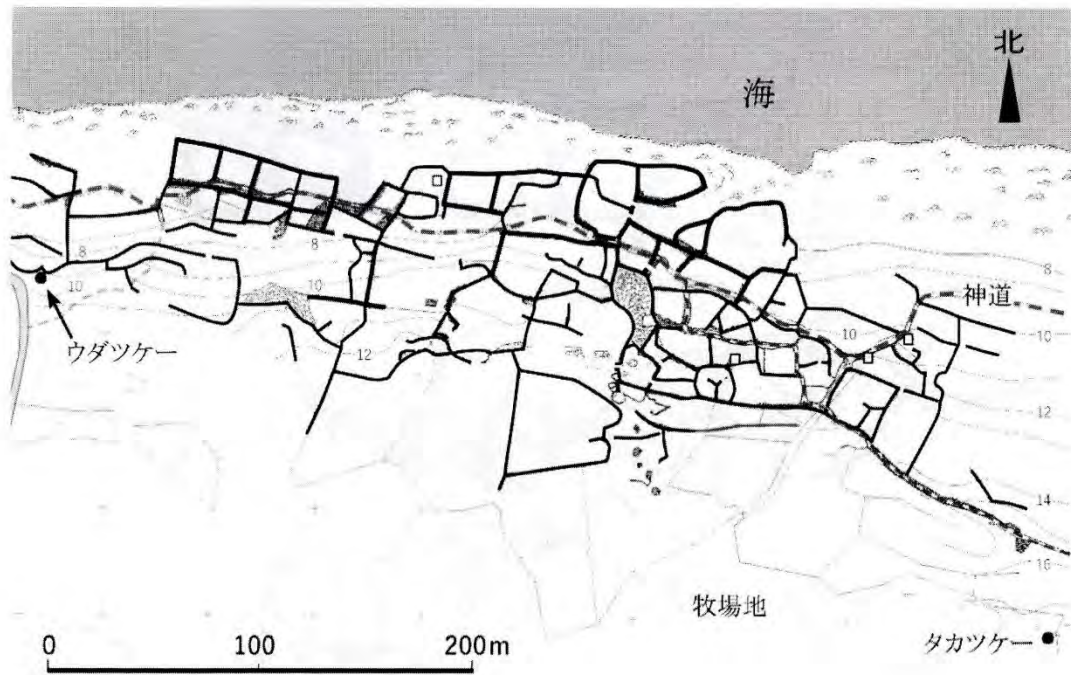


図2 波照間島・マシユク遺跡模式図

図 14 竹富町波照間島マシユク遺跡(村木ほか 2020)

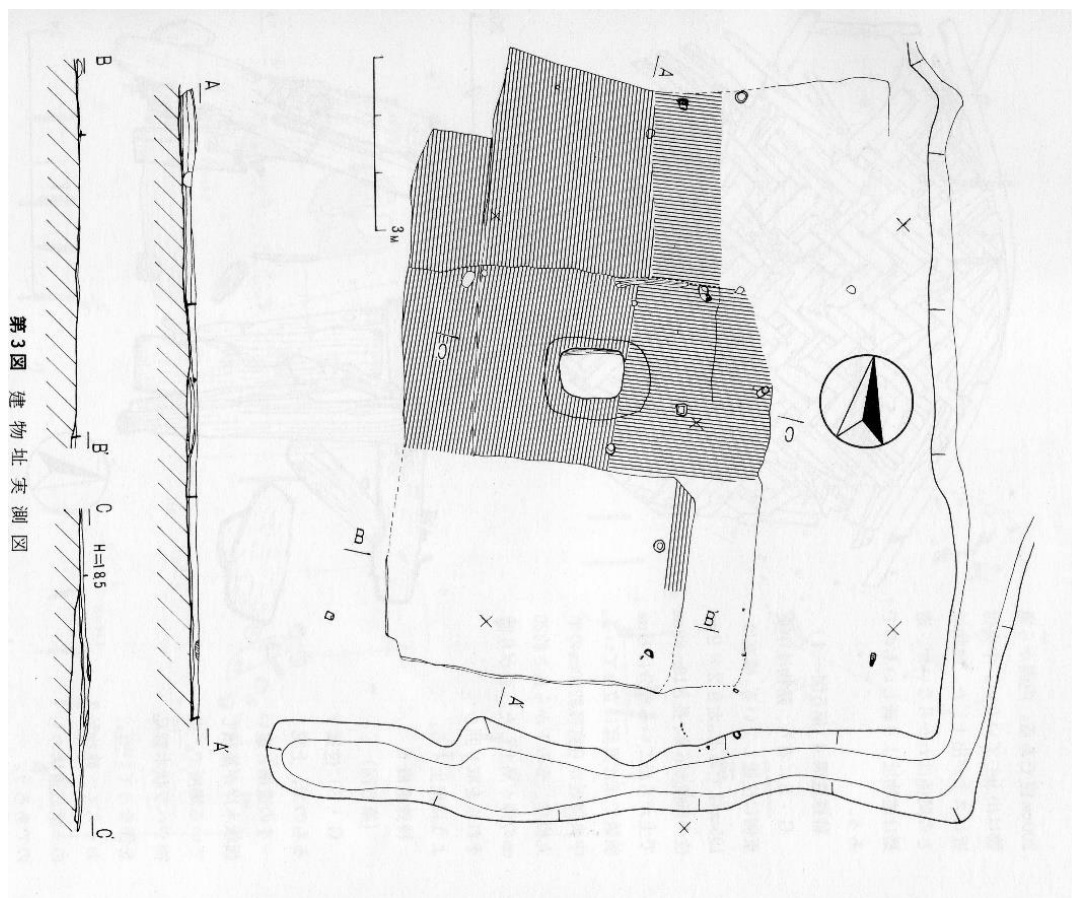


図 15 新潟市馬場屋敷遺跡下層建築址(川上ほか 1983)

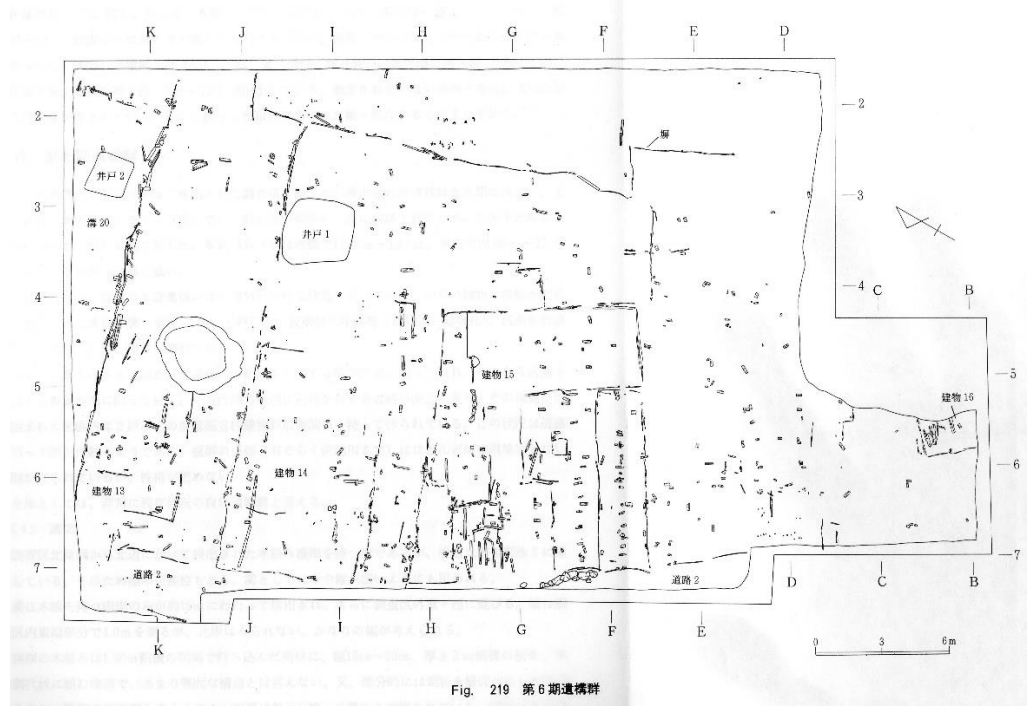


Fig. 219 第6期遺構群

図 16 鎌倉市佐助ヶ谷遺跡第6期遺構群(斎木ほか 1993)

図 17 『陸奥国骨寺村絵図』詳細図(複製)(工藤・大石他 26004)